意見交換の概要
（平成 24 年 7 月 31 日(火)・松前町役場）

１．営業推進本部の取り組みについて

先程、営業推進本部の話があったが、すごく良いことだと思う。県外のお客様とお話をする時に「愛媛県の会社です」と話すと「愛媛ってどこ」というような話になる。「四国の愛媛県です」というと「うどんで有名な」「いや、それは香川です」みたいなことで、知名度がまだまだということを実感する。特に、どうも関東の人達は、愛媛県と愛知県をよく間違えるみたいで、名刺に愛媛県と書いていても、頭の中で、名古屋の辺りのみたいに思うようです。愛媛県の名前があまり知られていないと実感する。電話で商談する場合は、四国の愛媛県だと言うようにしている。県庁に営業推進本部を作って知名度を上げていく、愛媛県を売っていくという取り組みをされており、すごく良い取組みだと思う。「みきゃん」とかキャラクターも作っているが、今後の営業推進本部の取組みについて具体的にお聞かせいただきたい。

【知事】

正直言って、県庁の組織は、民間ビジネスということについて、実際にやった経験がある訳でもないですから。実はこの営業推進本部というのは、最初から構想としては持っていたんですが、一年間、時間を遅らせました。その間に、ビジネスとは一体どういうものなのかということを、僕の方から知り得る限りのレクチャーをして、それを受け止めた上で人選をしてスタートをしたということで、１年間、時間をずらしたんです。

今、よく言っているのは、ただ単に、愛媛県の特産品をパンフレットを持って売るだけじゃ効果はないよという話。もっとビジネスというものをしっかりと知った上で、その中で、行政がどの部分を受け持つのかというのを明確にする必要がある。具体的に言うと、ビジネスというのは、まずこういう物がありますよ、こういう製品がありますよ、こういうサービスがありますよという引き合いの段階があって、ああそれは良いねと言えば契約に漕ぎ着けて、その後に契約に基いて物や製品の受け渡しというものが行われて、その後に決済が行われ、場合によっては、その後にクレーム処理があると。どんなに大きな商売でも小さな商売でも、この５段階の流れというのは、いささかも変わらないと、そういうところから入っていきました。その中で、行政が関われるとすればどこなのか。正直言って決済には直接関われない。クレーム処理も関われません、それから成約はもう業者同士の話ですから、関われるのは、引き合いと受け渡しの流通のところですね。ここに焦点を絞れと。

引き合いのところについては、愛媛県という行政体の信用力を前面に出して、さっき言ったような中小企業のサポートをするという役割があるだろうと。デリバリーというのは、結局地の利の問題で、東京までの輸送コストが高すぎて商売できないとかいうようなことを、例えば、県の方が、色んな業者に、こういうトラック便を走らせるから皆共同で使用してくれと、軌道に乗るまでは補助しましょうとかですね、そういう流通面でのサポートをするとか。或いは、今、東アジアに送っていることも同じですが、流通の問題があります。

ただ、やっぱり良い物は売れるなと思ったのは、今年の３月にシンガポールに行って商談会をやって来たのですが、愛媛県の魚は非常に良いということで、既にこの数か月の間に３回オーダーが入ってきて、１回のオーダー３００万円くらいですが、シンガポールに向かって松山港から船が出港し始めています。そういったビシネスをどう考えるかを知る、それからその中で、行政がどこにサポートできるかを知る。これをベースにしながら、信用のある良い会社との愛媛県主催の商談会を年に何回開催できるのか、そして、アタックした訪問件数が何社なのか、ここをしっかりと数字で追っ掛けるよというのが、今の愛媛県の考え方です。それを目指して、今、担当

者は走り回っているということになります。

先程申し上げたように、今、海外を視野に入れていますが、正直言って７０円台後半の為替相場では、価格競争力でアジアでは勝負できません。倍半分違いますので。ただ、農林水産品にしても、質等で考えたらもう雲泥の差がある。例えば、その中で、闇雲に海外に行っても金をドブに捨てるようなものですから、ターゲットは、今回は４カ国だけです。それは、経済成長が著しい国、政治的に安定している国、それに伴って富裕層が拡大している国、日本文化や日本食に関心がある人が多い国。それで絞ったのが上海と台北とシンガポールと香港の４つです。例えば、シンガポールは、面積は淡路島くらいの小さなところです。そこに５５０万人の人口がいて、観光やビシネスで訪れる人が年間６千万人か７千万人います。淡路島みたいなところですが、一人当たりの国民総生産は、もう日本より上に行っています。もう一つは、調べた結果、家庭料理を作る習慣がほとんどなく外食志向です。その結果、淡路島くらいの面積の中に日本食レストランが７００店舗あります。これは驚異的な数字です。今回、僕が行った時に声を掛けたら、１００店舗以上集まってくれました。１００店舗集まったので、こちら側から一緒に売り込みたいという方々を募って行ったら非常に反応が良いんですね。これはもう高くても欲しいと。求めているのは値段じゃないと。うちの店でしか置いていないという良い物があるかどうかなんで、これは使いたいとオーダーに繋がってくるんですね。だから、確かに価格面では厳しい競争にありますが、これは今から、どんどんやっていかなければいけないんだと思う。何故ならば、これから少子高齢化で、日本全体の人口が縮小傾向になっていくということは、国内のマーケットは小さくなっていくということ。だから、今からそういったことも睨んで、すぐに結果は出なくても種まきをしておくということも大事なのかなと、そんな戦略で臨んでいます。

２．地場に水産物の一次加工処理の工場を

私の社では水産物を扱っているが、９９％の原料は海外の物。地場の物を使いたいがなかなか原料がない。確かに天然よりも養殖指向というのはあるが、上海、シンガポール、香港等では養殖も良いが、天然のものを喜ぶ傾向もある。松山の問題は、例えばエビや他の魚が採れても、値段の高い所に持って行き地場で落ちない。地場に加工場がないために落ちない。ちりめんなどは、松前にも工場があり松前のものとして流通しているが、例えば、エビや小ダイなどは、県外に出て安くたたかれ、松山の良いものでもどこかのものと同じになってしまう。また、値段の付け難いものや捨ててしまうものをうまく一次加工する場があれば、私どもの加工場で二次処理をして、冷凍ストックすることもでき、学校給食で、子ども達に食べてもらうといった流れもできると思う。一次加工する所さえあれば、我々の工場でも、地場の原料をもっと使っていける。中予地区でも、そうした流れができたら良いのではないかと思う。

【知事】

東アジアで、養殖魚と天然魚のどちらが好まれているかというのは、ちょっとまだ分析仕切れていないところがある。養殖の方が良いという人もいれば、天然の方が良いという人もいる。ただ、あまり向こうから、養殖が良いとか天然が良いとかいうことは聞かないですね。食べて美味しいかどうかだと。僕が会った範囲では、どちらかというと軟らかい方を好むんですよ。これは軟らかくて良いよと。僕らの世代は硬めが良いという世代ですが、今の日本の若い人達は、アゴが弱くなっているのか草食系が受けたのか分からないですが、軟らかいものを好む傾向が出てきています。これはまだ厳格にどっちが良いという結論は出せないけど、良ければ、新鮮であれば十分に養殖でもいけるなという感触は持っています。別に、シンガポールなんかは、冷凍技術さえしっかりとしていれば、活魚じゃなくても大丈夫だということも、それぞれのお店の人からもお聞きしました。ただ上海については、今年、中国に行って、上海便の増便の交渉をしてきたの

ですが、この４月から週３便になりました。その相手にはもちろん、ビジネス利用、観光利用もあるのですが、実は、上海便は魚を乗せられるんです。普通の航空会社は嫌がるんですが、東方航空は、上海まで魚はＯＫだということで。実は、宇和島から出荷された魚は、築地に着くよりも上海に着く方が早いんです。そういったことも含めての増便交渉でした。

今お話のあった加工ですが、まさにここが愛媛県の弱点だと思います。先日、愛媛大学の南予水産研究センターに行った時に、養殖のひじきを作っていました。これは、商品としては面白い取組みだとは思いますが、常に技術改良がどんどん進んでいて、そして、こちらにあるのがそれを製品化したものですと言って、紙パックに入った養殖技術を使った製品が置いてあったんです。ここまで来ているんだと裏を見てみたら生産場所が大分県になっているんですよ。愛媛県には、加工する場所がないんです。これは、真珠もそうです。一番価格の取れる付加価値の高いところを他県に持っていかれている。愛媛県は、その素材を作るということを得意としているというのは、歴史的にそうだったような気もします。特に、水産関係。だから、この辺りはおっしゃったような付加価値のある加工場所というものは、これからの長い目で見た一つのテーマになってくると思っています。これは、民間でやるのが良いのか官民共同でやるのが良いのか、それはこれから立地する市町の判断もありますので、そんな声が是非出てきて欲しいなと期待をしています。

養殖も良いし天然も良いというのは、まさにそこにあって、愛媛県というのは、海岸線が長いが故に、東予の方だったら来島の非常に速い潮流で鍛えられた歯ごたえのある天然魚の魚場になっていますし、この辺りの松山・松前の海域というのは、瀬戸内海の一見穏やかだけれども力強い潮流で育った小魚の漁場になっていますし、この下に行ったら、長浜は、フグを中心とした漁場、佐田岬半島の先は、豊後水道との間で採れるアジ、サバの大変良い漁場になっていますし、宇和海は、養殖業とはいえ天然魚の漁場もある。全国には、日本近海に 3,500 種の魚が生息しているが、宇和海だけで 850 種いる。びっくりするくらい豊富な種類を持っていて、一つの県で、これだけキャラクターの違う天然魚の漁場があるというのは、強みにしていかなくてはいけないと思っています。今まで戦略があったかというとなかなかないんです。例えば、良い例が、佐田岬のアジとサバは、同じ場所で採れているのに、大分に揚がると関アジ、関サバの名前で、一匹 3,000 円、4,000 円の値が付く。同じものを愛媛で揚げると岬アジ、岬サバで、1,500 円か 2,000 円になっちゃう。全く同じものですよね。これは非常に他愛もない話だが、「ハナアジ」「ハナサバ」という響きがどうなのかなと個人的には思ったんです。「ハナ」というと聴いた瞬間ちょっと安っぽいのかなと。僕は、むしろあれは、そのまま読んで字の如しで「ミサキアジ」「ミサキサバ」というおしゃれな響きをそのまま使った方が、首都圏なんかでは、受けるんじゃないかなと。そういうことも一つの戦略として考えていく必要があるんじゃないかなと思っています。

《補足》〔経済労働部・農林水産部〕

本県は、マダイやブリ等の養殖魚など水産業が盛んであり、これら多彩で豊富な水産物をはじめとした農林水産資源を生かした食品加工力の向上を図るため、県では、「経済成長戦略 2010」に基づき、県内食品企業の育成を図るとともに、県外大手食品企業の誘致を進めています。

このうち、大手食品企業の誘致に関しては、県外事務所と一体となった企業訪問活動のほか、平成２４年度からは、食品関連企業に対する補助率の嵩上げや全国初となる操業当初のランニングコストへの支援など、誘致に係る優遇措置を拡充したほか、「営業戦略監」の新設等による推進体制の強化など、積極的に取り組んでいます。

水産物の一次加工処理工場についても、こうした誘致活動等を通じその育成・発展を図ることとしており、引き続き積極的に取り組んでいきたいと考えています。

また、国では、農林漁業者が自ら、あるいは食品産業者と連携して行う取組みについて、農林水産物の加工・販売施設や農林漁業用機械の整備を支援しているほか、６次産業化サポートセン

ターを窓口として、農林漁業者等の６次産業化の取組みにつながる案件の発掘や新商品開発・販路拡大のアドバイス、六次産業化法の認定申請から認定後のフォローアップを行っています。

なお、本県独自の事業として、今年度から「地域水産物６次産業化推進事業」を創設し、漁業者が実践する地域水産物の直接販売や加工品の開発などの新たな取組みを支援しています。

３．ＪＲ松山駅の駅ビル内の店舗等について

ＪＲ松山駅２階の元レストランがあった所に１００円ショップができている。観光・道後を売り物にしている松山の玄関口に、１００円ショップは馴染まないのではないかなと思う。松山の玄関口に相応しいものを誘致したら如何か。違和感を覚える。ＪＲは民間なので、言えないかもしれないが、観光で来た方は、俳都松山、道後温泉、そういった文化面を求めて来る方も大勢いると思うので、それに相応しいものを。

【知事】

ＪＲの駅のことは、残念ながら我々が口出しできる権限はないんですよ。玄関口と言えば、空と陸と海があるかと思うのですが、松山空港と高浜観光港の場合は、そのビルの管理は、県も市も出資した公の団体がやっていますので、そこについては、こういう店のルールでということができるのですが、ＪＲの場合は、完全にＪＲのものになっています。行政体が、ビジネスに関わってしまうので、例えば、これを除けろとか、あれを除けろとか、要望としてはできても、それを強制してどうするということはちょっと難しいと思います。ＪＲ自体が、今、昔の国鉄の時代と違って民間に分割されて運営されていまして、ＪＲ四国は、体質的に非常に弱いですね。非常に体質が弱いが故に、そういうところで、テナントを入れざるを得ないという状況があるのかもしれないし、また、駅自体が、観光面から見ると確かにそうかもしれないのですが、利用客の大半は、通勤・通学のお客さんが多いと思いますので、それらを含めた経営の判断かなと思います。観光面から捉えたら確かにそういうことはあるかもしれないけれども、なかなかそれを止めなさいということは難しいと正直言って思います。

４．松山城の売店について

松山城のロープウェイを上った所に売店があるが、アイスクリームや自動販売機の飲み物の値段が物凄く高い。それを知っている者は、下で１００円とかで飲み物を買って行くが、買っていない人は、のどが渇いたら１５０円でも買う。これは公共施設としては、まずいんじゃないかなと思う。公共施設の中にある自動販売機の料金は、１０円、２０円ずつ高い。これは、どういう仕組みになっているのか分からないが、不思議に思う。

【知事】

松山城は、僕もよく分からないですが、ただ、売店で何を売るか、そして、価格をいくら付けるかということは、お店の経営方針になっています。例えば、アイスクリームが何を指しているのかよく分かりませんが、オリジナルのソフトクリームなのか、それとも、店舗側が仕入れた市販品なのか、これによって扱いが全然変わってきますし、オリジナルの商品、例えば、伊予柑ソフトクリームとか、その場所にしかないものについては、これは、逆にある程度の価格は取るべきだと思っています。そこでしか食べられない、手間もかかる美味しい物という絶対的な自信があったら、それなりの価格を提示する。買う買わないは、お客さんの自由ですから。そこが、どれを指しているか分からないので何とも言いようがないですが、いずれにしても、松山に来た場合に、例えば、お店の店員さんの態度が悪かったとか、そういう苦情については、観光にマイナスになっているからすぐに対応するようにという指導はできると思いますが、価格については、

ちょっと難しいと思います。

５．伊予市の伊予彩まつりについて

伊予市の住吉まつりが、来年から名称が変わり「伊予彩まつり」になる。地域力を上げると知事が最初におっしゃっていた一環に該当すると思うが、土日開催にすることで、なるべく参加者を多くということで。祭りがどんどん衰退している中で、花火のスポンサーを探すのも大変で、今回同窓会花火というものを上げた。このお祭りでは、伊予市の観光協会や市役所の職員が、本当に不眠不休で頑張っている。お祭りがないまちはつまらない。私は、７月２２日の宇和島のガイヤカーニバルの時の知事のカウントダウンを聞いて感動した。そこで、来年の伊予彩まつりは、名称が変わって最初のスタートですから、是非、知事に出席していただきたい。

【知事】

来年の日程は、まだ全然分からないので。本当に、できる限り色々な所には行くようにするのですが。今回、実は、今お話があった宇和島のガイヤカーニバルですが、あれは、実行委員会の方から、今までは、決った人が審査員をやっていたのですが、今回は、ガラッと替えたい、宇和島の伊達の当主さんと僕に審査員を是非やってくれというので、それで、いやし博のこともあったので行くことにしたのですが、あの盛り上がりに、正直言ってちょっと驚きました。確かに宇崎竜童さんが作ったガイヤの歌は、非常にリズムも良いし、「牛鬼担いでわれーわれー」というところで踊り連が一つになれるあの掛け声も非常に良くできているなと思ったけど、松山まつりとの違いで分かったのは、企業連がほとんどないということ。普通、企業連が、何とかしよう、参加者を募ってやろうということでやりますよね。踊り始めたら皆楽しいんですが、始まる前までは、面倒くさいなでも会社に言われたからという何となく無理やり感みたいなものが漂っているんですね。踊ったら皆楽しそうになるんですが。でも、宇和島の場合は、企業連がほとんどなくて、何でこんなに集まるんですかって聞いたら、皆好きだから、同級生とか仕事の仲間とか、来年こそ皆で出ようとかいうノリでどんどん増えているらしいんですね。今回、５７連ですよ。3,000 人が出ていて、宇和島の人は、うちのまちは高齢化と人口減少で苦しんでいるのに、普段この若者はどこにいるんやろかというくらい皆がびっくりしていました。もう一つの違いは、踊りが終わった後だったんです。普通踊りが終わると、皆何となく「終わったー」と言っていなくなっていくんですが、全然いなくならないんです。最後に表彰式があるというのもありますが、終わった後に、表彰式まで小１時間あるその間も、皆広場に集まって踊っているんです。これは、楽しんでやっているカーニバルなんだなということを初めて知りました。やり方によっては、非常にもっと増えるだろうなという可能性も感じたが、その辺りも無理やりじゃなくて、自主的に皆が楽しく参加したい祭りにすると、どんどん拡大していくんじゃないかなというのが、今回ガイヤカーニーバルに行って感じたことです。是非、伊予市の伊予彩まつりもそんな感じで盛り上げていただけたらと思います。

６．松山から九州への航路の復活について

愛媛県と本州は、しまなみ海道とかで結ばれているが、九州への連絡路は、八幡浜から別府、八幡浜から臼杵、三崎から佐賀関とこれだけ。昔は、松山港発の関西汽船などがあったが、なくなったので非常に不便。何とか復活できないものかと思う。

【知事】

関西汽船やダイヤモンドフェリーのように大阪の南港から松山港に寄って別府というルートがあって、僕も子どもの頃よく乗っていた大好きなルートでした。特に、南港を夜中の１０時に

出航して、朝６時に高浜観光港に帰ってくるルートなんか最高のゴールデンルートで、５時頃には甲板に出て、朝日が昇る瀬戸内海の多島美を見つめながら観光港に入って来るあの光景というのは、もう生涯忘れ得ぬルートなので、あれがなくなると聞いた時、松山市長でしたが、必死になって抵抗したんです。ところが、架橋の並存による利用者の減少と、燃料代の高騰が追い討ちを掛けて、残念ながらああいう形になってしまいました。その時に交渉して、それでも何とかということをやりましたが、大阪から別府に直接行くのと、松山港を経由して行くのとでは、凄まじくコストの差があるんですね。金額は正確には覚えていませんが、停泊することによってこれだけの費用がかかるのかとびっくりした覚えがあります。今の状況では、なるほど民間会社では無理なんだなということを、当時、納得した覚えがあるので、今の経済情勢の中で、船会社が動くような状況ではないと思います。一方で、八幡浜や三崎のフェリーは利用者が増えているんですよ。

（参加者）

値段が上がっている。

【知事】

強気になっているんですね。何故増えたかと言うと、これは根拠があります。大分或いは宮崎から、大阪の吹田市まで行くと仮定してください。二つのルートがあります。九州を北上して中国地方に渡って、中国自動車道で大阪まで行くルートと、船を使って八幡浜や佐田岬にあがって、松山高速経由で大阪に行くルート。この大きな二つのルートがありますが、どっちが早いかです。船を使ってでも下を走った方が早いし距離も短いんです。ショートカットですから。トラックなんかは、全部そっちに流れてきているんですね。ただ、今、あそこはルートに弱点があって、八幡浜から大洲に抜けていく道路が、異常に狭いんです。これを来年度の新しい事業で起こそうと必死になって交渉している最中ですが、ここが整備されるとさらに便利性が向上しますから、あのルートは、今後とも絶対大丈夫だと思います。ただ、料金が下がると良いですが、そんな状況があります。

７．伊方原発の安全について

愛媛新聞に大きく論じられていたが、私は、伊方原発から３０㎞ 圏内に住んでいる。私は、伊方原発廃止論に賛成ではないが、伊方原発は、震度やマグニチュード幾らまで、津波は高さ幾らまで絶対安全なのかを知りたい。昨年の「愛顔でトーク」の報告書を見ると、知事は、南海地震は大体マグニチュード８．６、津波が徳島や高知の沖から足摺岬を通って伊方原発に来た時には１．９ｍで、伊方原発は海抜１０ｍだから安全。また、福島原発は、非常用ディーゼル発電機が地下にあったから作動しなかったが、伊方原発は、１０ｍの所にあるから安全。伊方沖には、プレートはなく断層があるので、縦揺れはなく横揺れはあり、横ずれの場合の最高は４ｍ２５㎝ なので、これも安全だよと発言している。そのように安全安全と言っているが、私が心配しているのは「あれは想定外のものが来た」と言われ、１０ｍ以上のものが来たらどうなるかということ。実際に想定外のことが起きた場合でも、安全だということが知りたい。

【知事】

まず、最近、非常に原発の問題が、再稼動か否か、原発廃止か推進かといった単純な話でわーっとなっている。これは、後ろには政治的な意図もあると思いますが、そんな単純な話ではないと僕は思っていました。というのが、じゃあ今すぐに原発を止めると言ったって、稼動しようが稼動しまいが原発はそこにあるものですからリスクはあるんです。同じです。だから本質的な議論というのは、もっと違うところにあって、正直言って原発と言うのは、絶対安全なものではないですよね。だからこそ人類というのは、そういったものを知恵と科学技術で、どう安全をキー

プしていくかというのを考えて進化してきたが、今回の福島の事故で、あの状況を見て多くの人達は、でき得るならば原発に頼らない社会を作りたいと、ここは共通していると思うんですよ。だったらどうすればそれに近づいていけるのか、現実にそれが達成できるのかというのを一つ一つ検証していく必要があると思います。今、申し上げたように、稼動しようがしまいが、実は本質的な問題ではなくて、活動しなかったってそこに原発が存在していますから、リスクは同じようにあります。もし、脱出するとするならば、まずは、原発に代わり得るエネルギー源をどこに求めるかというのをはっきりと定めるということが一つ、それから、今、原発を廃炉にしようと言っても、その技術はないんです。やったことがないんですよ。日本の国って、廃炉にしたことが１回しか経験がなくって、ちっちゃな試験炉でしかやったことがない。今、東海原発の廃炉を進めようとしているのですが、非常に構造がシンプルなガス炉という小さいやつです。普通の原発は、皆大規模になりますから、２種類あって、沸騰水型の原子力発電所と加圧水型の原子力発電所というのがあります。どちらも廃炉にするには、ここをどういうふうに、この部分はどう廃炉まで持っていけば良いのか、あるいはこの配管については、どう処理するのかということを、誰もやったことがないんです。ですから、廃炉の技術の研究をしっかりやらないで、廃炉というのはできないということ。ここをちゃんと議論する必要があると思います。もう一つは、廃炉をするにしても、最終的に、その使用済みの燃料をどこに持っていくか全然決っていない。これもはっきりしないから、最終的にはそこから動かすことができないので、稼動しようがしまいがリスクは存在する。だから、本当に長い目で脱原発を目指す、依存をしないような社会を目指すのであれば、カッーとなって「反対」、そういう話ではなくて、脱原発をするためには何が必要なんだというのを積み上げていくということを抜きにして、それは達成できないんじゃないかなと思っています。少なくともそれを目指していくことが大事なことだと思いますので。そんな立場から、僕自身は、物事を見つめているということをお伝えさせていただけたらと思います。

そして、安全策についてですが、正直言って、昨日の新聞記事はよく分かりません。今までにない学説ですし、しかも、コメントがよく分からない。過去にそういう大きな津波が伊方に押し寄せたという痕跡や証拠は全然ない、提示していない。ひょっとしたらそういうことが起こる可能性もあると言っているだけであって、普通だったら、ここにこういう痕跡があるから、或いはこういう記録があるから当然想定すべきだというのが、本来の学者さんの姿勢、責任だと思いますが、今回は、ひょっとしたら可能性があるということを言われている。記事を見た限りにおいては、根拠も何も示されていないので、どう捉えれば良いのかなあということです。福島の場合は、今まで文献にも幾度となく２０ｍを超えるような巨大津波が押し寄せて来た、被害があったという歴史が、何度も刻まれていた場所です。これは、ニュースでもご存知の通りだと思います。かつての三陸沖地震、それからチリ地震で発生した津波、これによっても２０ｍを超える津波が記録されている場所です。伊方の方は、昔のことだから記録が残っていないで片付けられていましたが、そういう記録が一切残っていない。文献にも記されていることがありませんし伝聞でもない。もっと言えば、構造で言うと、地震には大きく分けて２種類あって、プレート型の地震と断層型の地震があります。プレート型の地震は、重なっているプレートの片方が潜り込んで、片側のプレートがポーンと跳ね上がるという地震で、縦ずれによって起こる地震です。まさに福島沖というのは、三陸一帯は太平洋プレートが伸びている所ですから、今回、海底１万ｍの所で一気に８ｍずれたと言われています。その８ｍずれた凄まじいエネルギーが、１万ｍですから膨大な海水にエネルギーが伝播して、それがうねりになって津波を引き起こしたと。こちら側で言えば、同じ構造は徳島沖。いわゆる我々が称している南海地震は同じ規模の大津波が発生することは十分考えられます。その場合に、徳島に押し寄せる、或いは高知に押し寄せる波は、２０ｍを超えるでしょう。場合によっては、３０ｍクラスになるかもしれません。愛南町でも１７ｍという試算が出ていました。最悪の場合ですね。但し、そこは、プレートで、１万ｍの所でドーンと

来て起こる津波で、その残りが内海に入って来ます。残されたエネルギーで、八幡浜にもある程度の津波が来る。さらにそれが佐田岬半島にぶつかって、さらに残ったエネルギーが内海側の伊方に到達する。それを理論的に計算していくと１．９ｍ。だだ、これは再度検証したら良いと思うんですが、今までのところ研究者の研究では、１．９ｍということになっています。伊方の前面海域は断層型で、横ずれの場合は津波は発生しないんです。でもそれでは認識が甘いから、縦にずれた場合どうなるのかというのは、４．２５ｍです。縦にはずれないが、ずれたとしたらどうなるのか、何でこんなに小さくなるのかというと、海底が８０ｍなんですね、あそこは。福島沖や南海地震の震源地である所は、海底１万ｍ。伊方前面海域は８０ｍですから、そもそも乗っかっている海水の量が少ないということがありますので４ｍという計算に今のところなっています。実はこの前３月に新しい発表がされました。さっき言ったように愛南町では１７ｍという津波が押し寄せる可能性があるというので、びっくり仰天したんです。でもその記事の下の方を読んでいくと、その場合でも伊方に到達するのは、３ｍだったかな、そのくらいというのが一番最新のデータになっています。まず、ここを押えて置いていただきたい。

次に、伊方原発は、海抜１０ｍの所に立地しています。福島原発は、何故か分からないけど、過去にも大津波が何度も押し寄せているにも関わらず海抜６ｍの所に設置されていました。これは当時の人の判断ミス以外の何ものでもない。福島のことですから、今回検証して僕も知ったんですが。しかも、非常用ディーゼル電源車が、地下に設置されていたんです。これも理由があったんです。何で地下に設置されていたか。実は、これも記録を検証すると分かってきたんですが、当時、技術者によってディーゼル発電機が地下にあるのはまずいという意見があったんです。ところが、伊方の三菱製と違って、アメリカのＧＥというところが作った原発で、アメリカの場合は津波なんか全然心配するような地域に原発を作っていないですから、標準仕様契約だったんですね。こういう組み立てで工場で作っていますから、それをそのまま持ってきた場合いくらですという契約をしていたんです。ところが、標準仕様というのは、アメリカは津波が心配ないから、非常用ディーゼル発電機が地下に設計されていました。それをそのまま持って来られたので、これはまずいんじゃないかと言って、一応ＧＥに設計変更の打診をした経緯があったらしいんです。ところが、標準仕様から特別に設計変更をすると、べらぼうなお金がかかるというので、当時の東京電力の幹部は、そんなにお金がかかるんだったらやめよう地下で良いよと言って、あの地下の設計になっているそうです。だから、これへたすると人災ですよ。そういうふうな経緯がありました。伊方は、僕も全部見て来ましたが、おっしゃるように非常用ディーゼル発電機は、海抜１０ｍの所に設置されています。電源さえ動いていれば、冷却ができますから暴走が止められるんです。電源が全てだということで。国からは、移動用の大型の発電機を常設させろという指示が来たので、それはもう完了しています。でも、それだけではダメだということを四電に対して言いました。さらにアディショナルでプラスの電源対応をして欲しいという依頼をして返って来た答えが、伊方発電所の上に、亀浦変電所という所があります。３０何ｍかの所にありますが、この変電所から、伊方発電所の１号基、２号基、３号基に、ルートで配電線を敷いてくれと、これを別のルートで使える電源として確保してくれということで、それはやりましょうと、今年の３月に、その新たな送電線が、亀浦から引かれて完成をしています。これは、見に行くとすぐ分かりますが、それが第三の電源対策になっています。

もう一個が揺れの方ですが、実は、震度ということで設計はされていません。震度というと地震で揺れて震度６とか震度７とかいう数字が皆さんのお手元に届くと思いますが、それともう一つマグニチュードというのが届きます。原発の設計は、それとはまた違う数値で測られていまして、あまり聞きなれないんですが、基準地震動という、地震がどう伝播していくかという単位で語られます。「ガル」という単位になります。じゃあ５７０ガルが震度いくつに相当するんだと、僕も何回も何回も専門家にも聞きましたが、それは無理だと言うんです。比較できる単位ではな

く、そもそも質が違うものなので、凡そでは、例えば５７０ガルが震度８くらいだろうとか言えるが、ただ確約はしないよと必ず言ってきます。そんな感じだよというくらいのことしか専門家も言ってくれませんでした。伊方発電所というのは、その中で、５７０ガルという基準地震動で作られています。ところが、よくこのガルというのが一人歩きするのですが、基準地震動５７０ガルというのが、どこで計られるのか。伊方の場合は、固い岩盤が下にあります。岩盤の上に原発が建っています。その岩盤の所で５７０ガルという地震動が発生しても耐えられますよという設計になっています。５７０ガルは、ここでの話で、場合によっては、2,000 ガルくらいになります。下の揺れが上に行けば行くほどこういうふうになってきますから、よく 2,000 ガルで計測されたと言っても、一体、どこで計ったかによって受け止め方が全然違うので、伊方の場合は、岩盤の部分で５７０ガル耐えられるという設計になっています。ただ、さっき申し上げたように、伊方の場合は、少なくとも津波の心配よりは揺れの心配の方が大きいので、国の方は、５７０ガルの今の段階でも大丈夫と言っているんですが、それだけでは心もとないので、さっきの電源対策と一緒で、愛媛県としては、国が良いといっているからといって認める訳にはいきませんということで、四国電力に対して、揺れ対策についてできることを全部やってくれと要請しました。返ってきた答えが、５７０ガルで設計していますが、機器も全部チェックをしますと。目標は倍の 1,000 ガルに置きましょうと。５７０ガルで作られていると言っても、この部分は７００ガルまで既に耐えられるとか、この部分は８００ガルまで耐えられるとか、それぞれ違うんですね。最低５７０ガルは大丈夫というふうにしていますから、それを全部チェックしますと。そのチェックしたものの中で、1,000 ガルに対しての余裕度がないものについては、全部補強工事を実施する、３年はかかりますが、1,000 ガルに耐えられるよう補強工事をしますというのが、四国電力からの回答でした。順次、工事をしているところです。そういう中で、今、僕が気付いたものについては、四国電力に対して、どんどん要求を突きつけていますが、国からは、何も言ってきていませんので、だから、再稼動問題は白紙ですというふうに申し上げているということです。

昨日の大学の先生のお話は、正直言って僕は分からないのが現実です。というのが、ここにこういう痕跡があるからというのがあれば、それはちゃんとすぐ調べないとということになるんだけれど、そういうのがない。見当たらないが、可能性はあるというだけなので、どう対応したら良いのかなというのが率直な気持ちです。今年、国が発表した南海トラフ巨大地震が発生した時の新たな数値として出されたのが、愛南町で県内最大の１７．３ｍ。瀬戸内海側は、３．０～４．０ｍ。これが最大の津波であるということが、最新のデータ分析で発表されています。参考までに。

８．農業に対する教育について

青年農業者連絡協議会は、来年度で丁度５０周年だが、発足当時に比べたら会員数が１０分の１になっている。農業をやる中で、担い手不足ということが、物凄く重大な心配事の一つ。現在、地元の幼稚園や小学生と一緒に授業をやったりして、子ども達に農業に関心を持たせるというか生活の一部というような活動をしたりしている。小中学校の義務教育の面から捉えた時に、小学校ではよく一緒にものを植えたり、色々と活動をしたりするが、中学校では、余り地元で活動をしたということを聞いたことがない。小学校で教養を身に付けて、中学校で自分がどういう大人になりたいとか、どういう夢があるとか考える良い時に、農業の授業というか、皆で活動できる環境を教育として入れて欲しいと思うが、農業に対しての教育について、知事はどのように考えているか。

【知事】

農業教育についてですが、なかなか難しい面もあって、小中学校というのは、いわゆる義務教

育であるが故に、国の方で、カリキュラムがピッチリ決められているんですね。一年間にこういうことを全部教えないとダメですよと。だから、余白が非常に少ないという弱点があります。その中で、１０年位前に総合的な学習の時間というのができました。創造力を発揮させようとか、地域への郷土愛を高めていこうとか、学校単位で工夫をして子ども達の学習意欲や様々な求められる知識を取得するために、先生方が、学校単位で考えなさいよという、そういう時間ができました。その時に、時間の活用の仕方として多かったのが、環境教育、外国語理解教育、農業教育でした。当時、松山市長の立場ですが、松山市の学校でも、農業体験といったことを実施に移していた学校が多かったと思います。それからこれも市町村の単位ですが、里山の農業体験といって、子ども達に、北条地域と坂本地域でやりましたが、ある一定規模の田んぼや畑を借りて、そこに夏休みにかけて子ども達を集めて実際に農作業をして、作物を植えて、途中の世話をして、秋の収穫までやるという、そういう事業を２箇所で行いましたが、これは結構人気がありました。そういうことをモデル的にやった経験があります。こういうふうなことですから、市町村の事業として夏休みを活用するとか、或いは創造的な時間を活用するとかでやっていく道はあるんじゃないかなと思います。

いずれにしても、若い人が農業に携わるかどうかという一番の鍵を握っているのは、儲かるか儲からないかということですよね。利益が出る農業が現実のものになっていけば、当然のことながら若い人達来る訳ですよ。そこを一番どうすれば良いのかというのは、ここに関係者がいたら申し訳ないのですが、本当は、農協が考えるべき課題であったと思います。でも、そこまでのカバーが、実際に農協ができているのかどうか分かりません。だから今、二極化が起こっていると思いますが、農協も大事な役割を果たすけれども、いやあ自力で行くんだと言って法人化したり、別の道を歩み始めた人達も生まれてきている。いずれにしても、どっちでも良いけど、本当は農協がそういう指導をしていくというのが理想だと思いますが、農業者が儲かる、利益が出るようにするためには、何が必要かというのをどんどん考えて実施に移して実績が上がってくれば、担い手というのは絶対出てくるはずだと僕は思っています。自分の中で、じゃあどうすれば良いのかというのは、まだ、答えは見つけられないけれども、実際に、それで、利益をあげてきているのも事実です。是非皆さんが、そういったことを考えて、先駆者になってもらいたいなと思います。

９．鳥獣被害対策について

今、どの農家も、鳥獣害でかなり苦労をしていると思う。中島でも、イノシシは、元々いなかったところに６、７年前くらいから広島の方から泳いで来て、去年は、２３０頭くらい捕って、今年度は早くも７０頭近く捕っている。それでもまだ、少なくなったというようなことが全くない。陸地部では、全部駆除してしまうことは難しいと思うが、島嶼部の方で、ゼロになる方法はないものかなと思う。今、電柵とか金柵とかで農作物を守ってはいるが、耐え切れないような感じになっている。

【知事】

これはもう本当に問題になっていまして、イノシシとシカ、それからサル、この３鳥獣被害には、頭を痛めているところです。南予に行くとイノシシと同様にシカの被害が深刻になっていまして、どうすれば良いのかということが大きなテーマになっています。島は特に、中島だけの問題ではなくて、生名島であるとか岩城島とかでも同じ状況になっています。元々のルーツを辿っていくと、広島県のある島で、イノブタを飼育していたはずなんですよ。それが台風被害で飼育場が壊れて、一斉にイノブタが、泳いで海を渡って行ったと。中島では、５、６年前まで、イノシシは１頭もいなかったはずです。今は 1,000 頭は優に超えていると思います。駆除するのに、

大きなハードルになっているのが、駆除する人の確保です。当然のことながら鉄砲で撃ってもらわないと完全駆除はできませんが、撃つためには免許がいりますし、しかも組織的に動いてもらうためには猟友会に受け皿になってもらわないとできないということです。ところが、猟友会も会員の高齢化と減少で、非常に機動力がなくなっています。だから捕ってくれる人の絶対数が確保できないという非常に頭の痛い悩みがあります。そのことを受けて、先日、松山には自衛隊の駐屯地があるので、自衛隊で撃ってくれないかと言ったら、自衛隊法で絶対できないと言われて断られました。もう一つ頼んだのが、ライフルではないけれども、拳銃ということならば警察かなあと、警察のＯＢ会に行って、是非、かつての経験を活かして、警友会のＯＢの中で免許を取得して参加してくれないかと言ったら、短銃とライフルは全然別物ですと、すぐにできるものではないと言われました。そうしたようなことは地道にやっていくしかないのですが、もう一つ、猟友会というのが縄張り意識があって、支部単位で自分達が撃って良い場所というのが決まっていて、相互不可侵。ここの支部はこっちに行っちゃいけないとか、そういうのがあるらしいんです。そんなことをやっていたら、ただでさえ人数が少ないのに機動力がなくなるので、実は、今そういったものを越えてやって欲しいという呼び掛けをして、西予市の方では、支部を越えた連携というのが始まりました。高知県とも話し合って、こっちが高知に追い出したから終わりとか、高知が愛媛に追い出したから終わりとか、それでは根本的な解決にならないと、県境では共同でやろうということで、これも今年からスタートしています。さらに、多少でもということで、捕るごとに補助金を出しますから、その目標捕獲頭数を倍増して予算を確保しています。そういうことを一つ一つクリアしながらやっていきたいのですが、最大悩みは捕り手の絶対数が足らないということ。例えば、中島プロジェクトとか何かで松山市に掛け合って、こんなことを言ったらまた野志氏に怒られちゃうけど、例えばですよ、この何年間かで中島から一掃するので、島民で免許を取得するから助成制度を出してくれとか、その代わり、期限付きで良いと。その間に島民何人かで免許を取得して一斉にやるというような地域の独自の取り組みというのも一つのアイデアかも知れないかなと思います。今は、その撃ち手の問題をどうすれば良いかなというところから入らないと解決しないのが、最大の頭の痛いところです。

10. 暑さに強いお米の開発について

最近の温暖化によって、お米の「ヒノヒカリ」の品質の低下が著しいが、温度に強いお米の開発は、県としてどこまで進んでいるのか、お聞かせいただきたい。

【知事】

「ヒノヒカリ」は、ちょっと僕は正直言ってどこまで進んでいるか分かりません。西条でも同じような質問が出まして、あそこもお米を作っていますが、高温で非常に品質が低下して困っていると。香川県の方でそれに対応する品種の改良をしているので、愛媛県でもやって欲しいという話でしたが、その段階で現状が分からなかったのですが、今もまだ二日しかたっていないので、細かい事はお答えできません。誰か農政関係わかる人。

（中予産業経済部長）

今、農林水産研究所の方に確認しましたところ、県では、温暖化への対応として「にこまる」という品種を推奨しているということです。

（参加者）

「にこまる」は、宮崎とか九州の方の県がやったものではないですか。愛媛県としてのはできていないのですか。

（中予地域農業室長）

今、愛媛県の農林水産研究所の方では、高温対策に有望な品種として「媛育７４号」などの系

統が有望だと聞いています。「にこまる」は、国の九州・沖縄の研究所が育成した品種で、愛媛県では、有望な品種ではないかという現地の報告は受けているところです。

【知事】

最初に言った「媛育７４号」は、いつ頃できるのか。

（中予地域農業室長）

まだ品種名が付いていません。まだ試験中ということです。今、愛媛県の農林水産研究所の方で研究はやっているというところです。品種の育成というのは結構時間がかかりますので、いつできるというのは、断言できないと思いますが、検討中ということです。

【知事】

農林水産部に伝えておいてください。西条でもここでもそういう意見が出ましたよと。研究をしっかりとやって欲しいと。

《補足》〔農林水産部〕

県農林水産研究所では、高温耐性品種として「媛育７３号」と「媛育７４号」を育成検討中で、「媛育７３号」は２３年度から現地調査を実施し、「媛育７４号」については、２４年度から予備的な現地調査を行っているところです。

県としては、「媛育７４号」以外にも高温耐性や、高機能性、多収性品種などについても育成検討中であり、既存の品種と比べ優良と認められるものであれば、登録を目指し、適切に対応を進めることとしている。

また、「にこまる」については、高温耐性品種として注目されており、本県においては２３年度から現地調査を実施しており、調査結果をもとに奨励品種の採用について適切に対応して参ります。

11. 愛媛県産品一覧を作成して宣伝に利用しては

知事は、よく東京とかに行って愛媛産の宣伝をしているが、それは、今治タオルや柑橘類が中心だと思う。松前町にもブランド米として松前米というのがあり、東温市だったら里芋の伊予美人とかがある。県が、全部宣伝するのは難しいと思うが、それを一覧にして宣伝しやすい媒体を作ることはできるのかどうか聞きたい。

【知事】

宣伝媒体というのは、これをやれば絶対効果的だという方法があれば、皆楽なんですがないんです。確かに、東京に行った時に中心になっているのは、柑橘であることは間違いないですが、でもそれだけではないんですよ。スーパーマーケットや百貨店にセールスに行く時は、愛媛ブランド産品を全部やります。この中から、是非選んで欲しいということでやりますから、例えば、去年の暮れに阪急百貨店という大手の百貨店がありますが、そこに、愛媛産のブランド産品を売り込みに行きました。その時に相手が触手を伸ばしたのは、肉だったんです。甘トロ豚に関心を持って、試食会を向こうの会社でやった結果、食感が良いということで、今年の４月から大阪の阪急百貨店６店舗全店で、豚肉コーナーは全て甘トロ豚に切り替わっています。そういうチャンスはいくらでもあるので、特に、伊予美人なんていうのは、コロッケにしたら最高の里芋ですね。すり潰してやると普通の里芋で作るものと違って、クリーミーな食感が出てくるんですよ。あれも地域で食べ方も含めて名物にしていったら良いなと思うくらい素晴らしいと思いますので、是非、工夫をしてもらいたいなと。

さらにやろうとしているのが、去年と今年にかけて、ＰＲ大使として二人委嘱しました。この人達の発言力とか宣伝力というのは、色んな所で影響を与えていきます。その一人が、松山圏域

では友近という芸人さんで、もう一人が、新居浜市出身の歌手で水樹奈々ちゃん。友近は、そこらじゅうで愛媛産を宣伝してくれています。東京でイベントをやる時もいつも来てくれて、彼女が動くと東京中のマスコミが付いて来ますから、それだけでもインターネット等でバババババーと出ます。その結果、彼女がいつも食べているもので芸能界でバーッと広がったのが、松山あげであったりですね、それは本当に驚くべき影響力だなと思いました。水樹奈々ちゃんというのは、知る人ぞ知るということで、ここのところ紅白歌合戦に連続出場をしてアニメ声優の女王と言われていて、秋葉原に行ったら、収集がつかなくなるくらいの存在らしいんですよ。この前、委嘱を東京事務所でした時に、彼女が自分のブログに愛媛の産物をバーッと書いたら、その日のうちに８００件のアクセスがダーッと入ってくるくらい、僕らが知らない世界の影響力をもっているんだなあと思いました。そういう人達の力を借りながら愛媛産の宣伝に努めていきたいと思います。ただ、間違いなく言えることは、本当に愛媛県は、食材が豊富だということ。総合力ってすごくイメージアップに繋がるので、豊富な食材の存在というのを我々が受け止めるって凄いことだなと思いました。特に、今日もそこに来ていますが、地元新聞の方々に柑橘日本一というふうにしっかり書いていただきたい。皆があれを見て、愛媛県はまた二位になったからなという気持ちになっちゃうんですよ。そうじゃなくて、やっぱり愛媛県の故郷で作っている柑橘は日本一じゃないかという、皆がそんな自信を持ったら、県外に行った時に一人ひとりが宣伝マンになりますから、空気が全然違うと思います。そんなことも大事にしながら挑戦していきたいなと思います。

《補足》〔経済労働部・農林水産部〕

本県の「食」や「伝統的特産品」などを魅力的・効果的にＰＲするため、ホームページ「愛媛いいもの図鑑」を作成し、県産品のＰＲ等に活用しています。

県産農林水産物のＰＲについて、県レベルでは、①特に安全・安心で優れた品質を有するものを、えひめ愛フード推進機構が認定している「愛」あるブランド産品をはじめとして、②化学合成農薬・化学肥料を削減し、生産情報を公表し適正な管理体制のもとで生産された農産物を県が認証している『エコえひめ農産物』、③シニア野菜ソムリエの協力を得て県下のこだわりの食材を発掘している『隠れた「えひめの食材」』など、多様な観点から産品を選択して、効率的・効果的なＰＲを展開しています。

また、各市町や団体においても独自ブランド認証やブランド化支援によりブランド化とＰＲを展開しています。

これら様々な産品を網羅的にＰＲするのは、量的にも質的にも非常に困難であると考えますが、産品紹介サイトのより効果的な相互リンクによる連携や、各種フェア等でのＰＲ活動における県・市町・団体等の連携の充実など、県産品全体の総合的なイメージアップから個別産品の紹介まで、ＰＲ方策を今後とも模索いたします。

12. 旧広田村の小学校の山村留学制度の存続について

旧広田村は、今は砥部町となっているが、山村留学制度というのがある。高市という地区に山村留学センターがあり、その近くに高市小学校がある。小学生を一年間留学させる制度で、センターは、一部屋４人か６人くらい入れる部屋があって、寮のような集団生活を１年間する。高市地区の方が、大変熱心に子ども達を支えてくださり、大変力を入れていただけるので、集団生活により独立の気持ちもすごく育つし、とても良い制度だと思っている。しかしこの制度が、財政的な問題からか、なくなってしまうということを耳にしているので、是非とも存続させていただきたい。一度、知事にも見に行っていただき考えて欲しい。

【知事】

旧広田村の山村留学は、僕の甥っ子も行っていましたので、その存在は知っています。実は、これは、各地域でも同じような取り組みをしていたところがあって、その一つが松山市中島町の野忽那で、島の留学制度というのをやっていました。これには、ハードルも結構あって、受け入れる側の準備がしっかり整っているのかという点と、基本的には小中学校ですから、市町村の教育委員会が請け負っているということ。県は、公立高校の方です。当時、松山市長として、この問題に向き合っていましたが、砥部町がどういう考えでいるのかというのが分からないので、この場所で何ともお答えすることはできないのですが、地域の要望の中で、砥部町としてどうするのかというのが大事です。ここ数年の募集状況とか色々あるんだと思うので、そういったことをトータルに、地域でまず考えるということが必要だと思います。別に縦割りで逃げている訳ではないんですが、例えば、今の山村留学をこの地域で、県がもし主導してやった場合、じゃあうちもじゃあうちもって絶対になってきますから、やっぱりこの主体というのは、市町でまず決めるということが第一で、その中で、県は何をバックアップできるのかという順番で組み立てる話なのかなあという感じがします。中島の場合は、お世話をする方が、ちょっとどうしても、もうそこまでできないという状況になってしまったので、一応休止ということにはなっています。

13. 県立中山高校の跡地の利用について

県立中山高校が、今の３年生が卒業したら閉校し廃校になる。他所から通っていた生徒が多いのでＪＲの客も減るし、あの辺を通学していた生徒もいなくなる。高校があるのがまちの中心部で、生徒の声や運動場で運動する賑やかな声が聞こえていたりしていたが、そういった声も全然聞けなくなる。高速道路のスマートインターチェンジも、色々問題があって進む様子もない。高速道路も中山は素通りというような状況で、中山は、少子高齢化や色んなことで寂しいことばかり。高校の敷地は、県の土地だと聞いているので、できれば中山が活性化するように、人間的にも経済的にも潤いのある活性化した施設を、県の方の施設でも良いので、持って来れるようなものがあれば、そういった施設として活用して欲しい。活力のある中山にしていきたいと思っているので、県の考えを聞かせて欲しい。

【知事】

スマートインターは、全然諦めてはいません。国に対する重要要望にも、毎年入れていますし、いずれにしても、伊予市がどこまでそのことに関して重点を置いているかによって全然変わってくると思いますので、中山のためにも早くスマートインターをというのは、どんどん言われたら良いんじゃないかなと思います。四国の高速道路の中でも、一番何もない長い距離の場所になっていますから、そういうアプローチで国に対しても言っています。スマートインター片側だけですが、それでも大分違ってくると思います。もし実現した時に、いかに降りてもらって、次のところから乗ってもらうかという工夫を隣の地域と連携した中で考えていくという事が、大事になってくるのかなと思います。

中山高校の跡地利用については、この段階では、僕はまだ分かりません。跡地をどうするかというのは、現場から上がって来ていません。中山高校は校舎は古いの、新しいの。

（参加者）

３棟あるうちの１棟は耐震構造になっていませんが、２棟は耐震構造になっていて建物は使えるそうです。

【知事】

ということになると、今、新しく何かを建てるという財政状況ではないので、それを活用するということになると思いますが、一つやっかいなのが、耐震構造になっているということは、そ

んなに古くない建物が残っているのかなあと思いますが、
（参加者）
　新しくもないと思います。
【知事】
　学校の施設の場合、先程の中央集権の元でのルールですが、これまでの制度で、国の補助金を入れて学校の施設というのは建っています。学校で使う分には、国は何も言って来ません。ところが、これを別の用途で使うことになると、「学校で使うと言ったから補助金を出しているんだから別の用途で使うのだったら補助金を返しなさいよ」と言ってきます。この問題がネックになってくる可能性があるなと思っています。
（参加者）
　県の試験場とか、そういうものでもダメですか。
【知事】
　それでもダメです。結局、何年間はそれに使わなければいけないよって法律になっているんです。古いのか新しいのかが気になったのは、僕も詳しいことは覚えていませんが、例えば、２０年間は、学校で使わない限り補助金を返還せよとか、そういう年限を区切られているはずなんです。ですから、その辺りがどうなのかということが、一つ課題としてあるということ。それから、学校の仕様と別の何か事業をやる時の仕様とは、ルールが変わってきますので、それによって、またハードルが出てくる可能性があります。愛媛県で、かつて保健の関係で使っていた施設を教育関係に転用したことがあります。加戸前知事の時ですが、何てことない話だと加戸知事も思ったそうなんですが、国の方から待ったがかかって、今までは保健の関係の施設だったから問題になっていなかったが、学校で使う場合は、階段の段差が、１６㎝以下でなければならないという決まりになっていると。測ってみたら１６．５㎝になっていて、５㎜基準をオーバーしているから認められないと、こう来た訳なんです。中央集権の弊害の良い例ですが、今の補助金の問題にしても、廃校になって役割を変えるんだったら過去に遡って返せとか、そういう発想はもう古いんじゃないかなと思うので、今この場所で、どういう計画になるのかということは、何とも言えませんが、地域の皆さんと考えながら、放って置く訳にはいかないので、何かの形を考えていったら良いのかなと思います。
（参加者）
　ちょうど中心地なので、何かぽっかり穴があいたようで寂しい。すぐにどうこうということはできないんですね。
【知事】
　そうですね。調べてみないと何ともいえないですね。今の用途変更の問題というのを考えると。
（参加者）
　何とかまちの活性化ということを願っているので、どうぞよろしくお願いします。
【知事】
　スマートインターは全然進んでいないという訳ではなくて、一生懸命頑張っています。
（参加者）
　本当に努力していただいてありがとうございます。よろしくお願いいたします。

《補足》〔教育委員会〕
　平成２５年３月末で閉校となる中山高校の敷地については、一部、伊予市からの借地が含まれている。また、建物については、国庫補助を受けている校舎等があり、これらの建物を転用する場合、補助金返還等の処分制限があります。これらのことを踏まえ、今後の活用策について、現在、地元伊予市の御意見もいただきながら検討を行っているところです。

14. 伊予市双海町でのトライアスロン大会について

伊予市双海町で、８月５日に、初めてトライアスロン大会を実施する。知事にも来ていただけるかと思うが、今は準備段階でバタバタしている。先般の愛南町のトライアスロン大会も見てきたが、本当の地域住民による手作りのトライアスロン大会になると思っている。初めての大会にも関わらず、参加者を２００名募集すると２８０名近くの応募があって、トライアスロン大会の人気の高さに驚いている。将来的にこのトライアスロン大会を定着させ、大きな全国大会が実施できる双海町にしていきたいと思っている。まず手始めに、2017 年の愛媛国体でのトライアスロンの会場にできれば良いかなあと考えている。そして、このトライアスロンに限らず、海岸線の国道３７８号を利用して、各市町とも協力して、自転車などのスポーツ文化を発展させて、全国や世界へ発信していきたいと考えているので、知事にもご協力をお願いする。

【知事】

昔は、双海町というとだるま夕日で、色んなアイデアがビシビシ聞こえてきていましたが、最近ありま聞こえて来ないですね。夕日を売りにしていましたよね。コンサートをやったり、恋人岬ですか、ああいうので話題性があって、すごく良いなって思っていたのが、何かパタッと情報発信が弱まっているな、勿体ないなというのが正直な感想です。あそこの海岸線というのはすごく良くて、意外と見過ごされているのがＪＲの駅。これが良いんです。この間、トロッコ列車に乗った時なんか最高の光景でね。海岸から最も近い所に駅があるんですね、高台に。海の美しさとあの何とも言えない風景というのは、一つの財産だと思いますので、大いに活かして欲しいなと個人的にも期待しています。今回はトライアスロンをやられるということで、中島町では２６年に渡る歴史を刻んでいましたが、中島町と松山市が合併した時に、中島町はちょっと元気がなかったんです。もう名前も消えて吸収合併で、もうトライアスロンも止めたらどうかという意見もありました。その時に、よく島に渡って当時の関係者の方に言ったのは、皆さんがそういう気持ちだったらもうダメになります。これまでの行政は知りませんが、新松山市では、皆さんがやるぞとなったら１２０％の応援体制を組みますと、でも、待っていても何もしませんよと。そういうふうな投げ掛けを敢えてしました。だからトライアスロンもそういう気持ちだったらしょうがないですねと。但し、逆に議論する必要もあるんじゃないかと。新しく松山市になったら情報発信力が付くので一気にやろうじゃないかということも考えようじゃないですか。もしその気になるんだったら言ってくださいと。それを決めるのは皆さんですからという何かちょっと冷たい言い方をしたんです。当時の方々がやるかということになりましたので、そういう気持ちだったらと１２０％支援する体制を市はとりましたから、ともかく広報松山にもぐんぐん載せろとか、これをきっかけにしま博もやろうとか、色んなことをやりました。トライアスロン大会は、恐らく旧中島町時代より新松山市になった時の方が、参加者も応募も増えて、町民の皆さんも張り切るような大会に成長したんじゃないかなと個人的には思っています。大事なことは、今回初めての試みなので、地域の皆さんが力を合わせてやるんだという、それそこ沿道の応援も含めてね。この間の愛南町は、人口も少ないし過疎化に悩んでいますが、あの炎天下の中で、おじいちゃんもおばあちゃんもずらずら並んで頑張って応援していました。本当に一体感があったなあと思ったんですが、今回、伊予市双海町のトライアスロンでそういうことが起こることを心から期待をさせていただきたいと思います。ただ一つだけ将来の課題として、国道を自転車で走れたら最高ですよね。今回は、山の方を三往復くらいするコースなので、将来の課題なのかなあと思いました。

次にもう一つは、自転車の関係ですが、これは今、敢えて、世界に情報発信できる場所として今治を優先してやっていますが、しまなみ海道で人を引き付けて、来てみたら愛媛県には、色んな所にサイクリングコースがあるんだなあとなったらリピーターにも繋がるという、長い目で見

て戦略を描いていきたいと思いますが、まさにその伊予市の夕焼けラインは、サイクリングに最高のコースになると思いますが、そのためには、地域の皆さんにその気になってもらわないとダメですね。もてなす体制も作らなきゃいけないし、それから大体８０㎞から１００㎞のコースが必要です。そこをどこに設定するのかというのが、これからのブロックごとの課題になってくると思います。愛南町は、先日、１２０㎞の愛南町サイクリングロードというのを関係者で決めて乗り出しています。そこまで行ったら、今度は、そのラインが、自転車で走りやすいように、今治のようなブルーラインを引いていくんです。サイクリング愛好者にとって、それを目印にしていけば、間違いなくコースに行けるんだというサイクリングロードみたいな、別に新しく作るのではなくて、ブルーラインを引くのも一つの手法になっていくと思います。これは県の方でも、今治を皮切りにして各エリアで１００㎞内外の設定をしていこうというのを一つの方向性として、今打ち出しています。是非、そんな方法も考えてみようとなっていただけたらなと思っています。国体は、トライアスロンはまだ、種目になっていない・・・

（企画振興部長）

愛媛国体としては、入っていません。トライアスロンは選択になりまして、それを採ることもできますが、愛媛国体は、種目を決めた時に入っていないんです。愛南町でのトライアスロンの冊子に、将来的に可能性があるんじゃないかということを書いていましたが、愛媛国体では、今の段階では予定されていないということです。

【知事】

国体の種目というのがよく分からないところがあります。既得権みたいなのがあるのかなあと思いますが、例えば、やられている方がいたらごめんなさい、クレー射撃、誰がやっているのかなあ、どこでやれるのかなあと思ったりなんかするんですよ個人的に。それはそれで素晴らしい競技だけれども、じゃあ僕が、今、クレー射撃をちょっと撃ってみたいなと言ったって、どこでできるんですかねえ。

（企画振興部長）

四国中央市にあります。

【知事】

あることはあるんですね。それは、非常に専門性の高い、競技としては価値があるけど、国民が手軽に楽しめる競技ではないような気がします。今まで、タブーだったのかもしれないけれど、本当に国民体育大会って、国民が参加しチャレンジする大会という観点から種目も考えていく時期が来ているのではないかなという気はします。クレー射撃というのは、会長が、麻生太郎さんだから誰も逆らわないのかなあとかね。大体ね、政治家が、スポーツの会長をやったらろくなことないですよ。そういうところから手を引いて、スポーツはやっぱり政治色抜きでやるっていうのが、これから当たり前になって欲しいなと思います。

15. 社会教育にソーシャルネットを使うことについて

昨今、いじめや不登校の問題、さらには妊娠直後から始まる子育てへの支援の問題など色々な社会問題があるが、いじめの問題など大きな問題は、規範意識の問題や家庭内の問題、社会環境での問題の方が多い。そんな中、松山市青少年育成市民会議では、メールによる情報配信事業（マックネットＣＳＣ）を立ち上げたが、今後の中長期的な目標としては、支援の必要な人をどうやって見つけて子育てのサポートをするかということだが、一番難しい問題。隣の人が何をしているか分からない社会になり社会教育の現場が失われたと言われている。そこで、市民会議では、フェイスブックやツイッターなどソーシャルネットを使って子育て支援をしていこうと考えている。フェイスブック等は、若い人だけでなく４０代５０代のユーザーも増えており、ソーシャルネットを使ってコミュニケーションを取る入口を作っていこうと動いてい

るが、社会教育にソーシャルネットを使うということに対してどんな感じをお持ちか。

【知事】

ソーシャルネットワークの活用というのは、僕も、感想をと言われても分からないところがあって、そもそもマックシステムは、最初は子どもの不審者情報をＰＴＡのお母さん方に配信したいということで、このシステムを作りたいというのをＰＴＡから持ち掛けられて、その時に、立ち上がりの経費が足らないので、市で応援して欲しいという所からスタートした記憶があるのですが、約束は３年間だと、ＰＴＡとしても３年間以降は、この事業にある事業をくっ付けることによって自立しますということで、スタートした経緯がありましたよね。３年経った時に、国の法改正で、その予定していた収入に繋がる事業ができなくなったので、どうにもならないと、どうにかして欲しいと言って来た時に、確か冷たいことを言ったと思うんですよ。約束は３年ですからそれは無理ですと。但し、もし今後、市の応援というものを考えるのであれば、新たな価値を見出してくださいと。ただ単に今までの延長で、そのシステムを継続するから約束の３年を経ったけれども無理だから何とかしてくれというのは無理ですと、但し、これに拡大して、これを活用していくという新たな価値というものが認められた場合は、話し合える余地が出てくるのではないでしょうかというようなことを言った覚えがありますが、そこで、ＰＴＡの皆さんが考えたのが、配信ネットワークシステムを子どもの安全安心からさらに広げて子育て支援という所に持って行ったというのが、このシステムが拡大していったまさに分水嶺だったと思います。今、子育て支援情報の登録者は、何千人くらいになったんですか。

（参加者）

安全安心も含めたら５万人。

【知事】

５万人くらいになったんですね。総読者が５万人くらいになって、子育て相談も子育て情報も配信されるようなシステムへと拡大していった背景があります。さらには、今回、ソーシャルネットを使うということですが、実は、愛媛県でも試験的に、地方局が、フェイスブックを活用して情報発信を始めたり、色んな試みはしています。ただ、僕自身は時間がなくてやれないんですよね。だから、どこまでの効果、逆に言えばどういうマイナス面があるのか、自分自身がまだ検証し切れていないので、今の段階で、無責任なことは言えないので、使うべきか使うべきではないのかどっちだと言われても、自分の中で判断材料がないなというのが、正直な感想です。ただ、これからの情報化時代の中で、活用をしていく可能性というのは、当然のことながら高まってきているのかなあという感じはします。当然それをやる時には、マイナス面のチェックというのをしっかりとしておく必要があるんじゃないかなと思っています。

16. 松山市内近辺に魅力的な遊び場を設置しては

先日の愛媛新聞で、小学生県庁見学デーのニュースを見た。見学の最後に子ども達が、知事を質問攻めにしたという記事を見てとても頼もしく思った。私自身も小学校二人の子どもの母なので、日頃から未来を担う子ども達に何ができるのかを考えている。そこで御願いしたいのが、コミュニティセンターや公民館などの小さな施設は各地域にあるが、新居浜市の総合科学博物館や砥部町のこどもの城のような天候を気にしなくてよくて、夢のある魅力的な遊び場を、電車で行ける松山市市内近辺に作っていただけたらということ。

【知事】

箱物というのが、今、多くの方々の理解が得られない時代が続いていて、例えば、今、新居浜市でも、文化会館の建設を巡って住民投票条例をやるべきだとか言って、市内が二分されるよう

な大問題になっている。特に今、大きな施設を作るということに関しては、財政が厳しいですから、なかなか理解が得られない状況です。維持管理というコストもかかってくるので、むしろ既存のものをどう使うかという視点で物事を考えた方が、現実的なのかなあという感じがします。

実は、新居浜市の総合科学博物館、西予市宇和町にある歴史文化博物館というのは、昔の方が、最初は中心部である松山市に作るべきだという意見もあったんですが、ここがよく分かんないんだけれども、偉い議員さんがいて、今は、絶対そういうことを言わせることはないんですが、当時はそういう時代だったらしくて、南予にも作れ、東予にも作れって言って、東・中・南予のバランスを取ってやろうと言って、用途や使い勝手なんか全然関係なく、ただ単に、東・中・南予のバランスを取るという視点で、中予は道後の湯築城公園、南予は宇和町の歴史文化博物館、東予は新居浜市に総合科学博物館が配置された経緯があるやに聞いています。そういう中で、配置されてしまっているので、全県的にどう使うかということを、今、ちょっと頭を悩ませているんですが、例えば、歴史文化博物館が西予市にありますが、遠いですよね。何があるか分からないので、なかなか人が来てくれない。アイデアとして、今度、歴史文化博物館も是非行ってみたい場所に育てようということで、９月から弘法大師空海の和紙人形の常設展示をすることになりました。空海の一生を描いた作品をそこに並べます。お遍路さんだったら必ず行かなきゃという場所にすることによって人を呼び込むという、そんな工夫を、さっきの話ではないですが、今あるものをどのように活用するかという視点によって思わぬものが生まれてくる可能性があるので、是非そんなことで、お考えいただけないかなと思います。

17. 東北の被災者を松山まつりに招待しては

徳島県の知事が、阿波踊りに東北の被災者の方をたくさん招待したと聞いたのですが、愛媛でも松山祭りなどの楽しいイベントに是非招待して、元気付けてあげられたら良いなと思った。

【知事】

徳島県は、阿波踊りに招待されるんでしょうが、愛媛県は、実は、もっと良いことをやったと思っています。それは、「えひめ愛顔の助け合い基金」という基金を呼び掛けさせていただきました。県民の皆さんから多くのお金、気持ちを寄せていただきました。そのお金で何をやったかというと、どこもやっていませんが、東北で震災に遭ってお金の積み立てができなくなって、高校時代楽しみにしていた修学旅行ができなくなった学校があると聞いたので、それにお金を使いたいということで呼び掛けたら皆出してくれた。そのお金を持って東北の３県に直接行ってきました、去年の５月に。岩手、福島、宮城の知事に会って、テレビでこういう話を聞いたので、もし、あなたの県で、修学旅行を諦めるような学校があったら情報を繋いで欲しいと。全部、県民が寄せてくれたこの気持ちで招待しますからということで呼び掛けました。昨年は１０校 1,300 人の東北の高校生が、全部修学旅行を諦めていたのですが、お陰で修学旅行ができましたという気持ちで、愛媛県に来てくれました。その時に、それだけでは詰まんないですね。ただ来てもらうんだったらお金を出せばできること。何をやったかというと、愛媛県内の高校生に声を掛けました。同世代を生きる高校生が、修学旅行で愛媛県に来ると。皆震災で苦労をしているよ。その彼らをもてなすのは、同世代を生きる君達だと。だから、是非皆さん立ち上がってくれと言ったら、３０校の高校が名乗りを上げてくれた。何をやるかは自分達で考えてくれと。例えば、三島高校では書道パフォーマンスで迎えたい。全校生徒でやりましたよ。新居浜商業高校の子達は、浪江高校の子達と交流するのに当たってグルメ対決をしようと。浪江高校の子達は、浪江焼きそばを学校で作って、新居浜商業高校は新居浜の料理をつくって交流したり、それから、宇和島水産高校と石巻水産高校の交流では、両方とも水産関係の子ども達なので、両校の生徒によって思い出の缶詰を作ろうと言って一緒に作ったり、焼物の関係をやっている子達は、一緒に砥部町の

砥部焼きの里で思い出の砥部焼き作りをやろうとか。西条市の子ども達は、班に分かれて子ども達が観光案内をしようとか。そういう事業をやってくれているんですよ。僕は、正直言って、単に阿波踊りに招くよりも、ここだけの話ですよ、よっぽど良いことをやったと思っているんですよ。ですから、是非そんなことも知っていただきたいなと思いますし、特に、福島の学校の子ども達は、まだ、母校にも帰れていません。だから今回も修学旅行ギブアップ組です。是非今年も、もう一年やりたいということで投げ掛けています。去年は、岩手県が１校、宮城県が３校、福島県が６校来ました。今年も、すでに宮城県が２校、福島県が５校引き続き来ることになっています。今年もまた、愛媛の子ども達に立ち上がってもらいます。そういうことをやっておりますので、是非、知っていただけたらと思います。

18. 自然公園のお手洗いの改善を

私は、山が好きで、県立自然公園にも登る。今は、高齢者の生涯スポーツとして登山をする人もいる。若い人達が山ガールということで、最近は、石鎚山もどんどん増えている。ボランティアは、登山道を作ったりごみ拾いはできるが、できないことが一つある。県外からたくさんの観光客が、石鎚山をはじめ皿ヶ峰や玉川自然公園の楢原山、赤星山、南予の篠山や鬼ヶ城山にたくさん来ているが、この方達がいつも言われるのが、女性や子ども達が手洗いに困っているということ。石鎚山にも鎖の所に手洗いはあり、皿ヶ峰にもあるが、女性や子どもが手洗いをできる環境ではない。とても臭気が酷く虫がいて、人が立ち入ってしている様子が全くない。こういう所は、ボランティアではなかなかできない。宇和島の鬼ヶ城も手洗いはあるが、これも汚くて使えない。県外からもたくさん来るし登山者も年々増えているので、新しく作らなくても良いので、女性や子ども達が活用できるように改善をお願いしたい。

【知事】

今年の５月の連休に、石鎚山にちょっと登ってきました。去年の１２月２５日にも石鎚に行きました。冬の石鎚で、スキー場開きの時にイベントで来てくれといわれて、２４年ぶりにスキーを滑りました。朝１０時に家を出て、お昼過ぎには白銀の世界に立っているんですよ。それでスキー場で２、３時間楽しんで、豚汁を食べて帰って来ると夕方４時半には家に着いているんです。こんな日帰りで、あっという間に白銀の世界に行ってさっと帰れるなんて環境は、全国でもないですよ。びっくりしました。コールデンウイークの時は、前日、家内としまなみ海道を二人で自転車を借りて、多々良大橋まで往復して８０㎞あって、へとへとになって帰って来たんですが、翌日朝起きて体が痛かったけど、滅多にない休みなので、今日も家でゴロゴロしている訳にはいかないと家内を叩き起こして、行くぞーって言って、まだどこに行くか決めていなかったけど、そこで向かった先が石鎚山で、もうしばらく口もきいてくれないくらい疲れ果てましたが、今回、成就社の方から登ったんです。日頃は、土小屋の方から上がるんですが、成就社から上がる方がきついですね。土小屋から頂上まで４.５ｋｍ、成就社から頂上まで３.５ｋｍ、距離は１ｋｍ短いけど、時間は２時間半で一緒。これが全然違うんですね。でも、どちらも味わいがあって本当に良い思い出でした。石鎚山だけでなく、新居浜や川之江の方にも非常に良い山があるんですよね。皿ヶ峰も含めて、トレッキングの山登りのコース。特に石鎚山は、売りが西日本最高峰であるということと、今、西条でも、まちづくりプロジェクトが立ち上がっていますが、鎖をもっと大々的に宣伝しようと。鎖というのは、他にも鎖場を持っている山はあるらしいけど、鎖の大きさや太さが、どうやら日本一なんじゃないかということで、それを前面に出して石鎚登山というのを売っていこうということをやっていて、非常に良いアイデアだと思っています。

今、ご指摘のあったトイレの問題は、県庁の中でも結構議論をされていて、ただ、なかなか難しいのが、トイレの処理をどうするかという問題。しかも、電気も水もない所でどうするかとい

う非常に難しい課題が突き付けられているということと、もしそれを完備したものを作るにはいくらかかるのか、できた後の維持管理をどうするのか、色々と議論すべきハードルがあるので、今はとりあえず議論している最中です。それまで、携帯トイレの普及であるとか、マナー啓発であるとか、そこに力を入れながら、やがてどういうことができるのか議論していこうということで、テーマにはなっています。

（参加者）

利用者負担の有料で構わないので、それがあったら、本当に女の人や子ども達が、安心して山に登れる。愛媛には、イヨフウロ等、特別な植物もたくさんありますので、是非これらを守っていきたいと思うので、是非お力添えをいただいたらと思います。

《補足》〔県民環境部〕

現在、県では、利用者の多い石鎚山において、環境配慮型トイレ整備の検討を進めていますが、山のトイレは、一般的に、水がない、電気がない、車両が進入できないなど、難しい問題を抱えており、特に建設後の維持管理が大きな課題となります。そこで、山の環境に配慮したトイレの処理方法などについて関係者と協議を進めるとともに、携帯トイレの普及活動など、山のマナー向上を図っています。

19. 雇用対策について

知事から、地方の変化をテーマに、その中で経済環境の変化ということのお話をいただいたが、経済に大きく左右されるものとして雇用の問題があると思う。この数年来、特に新卒あたりも非常に厳しい就職環境が続いている。愛媛県の経済の活性化のために、中小企業の高い技術力の宣伝や企業誘致を積極的にして、雇用の創出にも取組んでおられると思うが、何か雇用対策についてお伺いしたい。

【知事】

雇用のマッチングという観点で注目していきたいなと思っています。例えば東予地域を回っていると、求める人材がいれば雇いたいという伸びしろが、まだまだあります。でもそこに見合った人材は、なかなか見つからないということをよく言われます。それともう一つは、そういう中小企業、すごく優良企業ですが、どちらかというと若い人達が、中小企業にあまり目を向けないで、大企業志向、安定志向になっていて、せっかくそこにすごい可能性がある企業があっても、門を叩きに来てくれないという両方の面があると思う。だから僕は、専門学校なんかでもよく言うんだけれども、例えばものづくりであるならば、大学もそうだと思うけど、今の社会や企業がどんな人材を求めているのかというのをしっかりと受け止めて、求める人材を育てるようなカリキュラムであるとか教育であるとかコースであるとか、そういうのをどんどん作っていくというのが、すごく大事だと思う。まだまだそういう余地はあると思っています。もちろん企業を誘致して新たな雇用を作り出すということも大事だけれども、意外と雇用のミスマッチングというのが、かなりの幅であるのかなあということを感じる時があるので、この辺りも考えていきたいなと思います。例えば、ものづくりの専門学校や職業訓練校は、時代に合わせてコースをどんどん変えていかないと、一昔前のことしか教えていないケースもあるので。現場、企業界、実業界の現状を教育関係者がしっかり把握して、それを教育のシステムの中でうまく取り入れていくという不断の努力が絶対に必要なんじゃないかなという感じがしています。

もう一つは、その情報をうまく伝えるためのハローワークであるとか、こうしたシステムをどう運用していくかということです。実は、これについては、賛否色々あると思いますが、国は、ハローワークは国が仕事をするべき分野だと言います。我々は、地方こそが、今の企業状況とか

知っていますから、これこそ県がやるべき話だというので、いつまでたっても綱引きが終わっていないというのが現状ですが、僕は、現場をよく知っている地方にその仕事を移管していくべきだという立場です。ただ、全国団体とか霞ヶ関のお役人さんは、まだまだそういう発想に至っていないので、ここでも実は、地方分権を巡る綱引きというのが行われています。こうしたようなことから、今の経済状況で、機械化も進む合理化も進む中で、これまで大量に雇っていた会社の採用人数が明らかに減っています。もうその流れは止めようがないので、実は、そういう所だけではなくて、可能性のある所はいくらでもあるのではないかと、でも、そのためには、就職したいという子ども達に情報をしっかりと渡していく整理が必要だし、就職する側、あるいは送り出す側からすれば、今求められている人材は何かということを把握してその人材育成に努めること、ここに雇用のマッチングを進めていくポイントがあるのではないかなと思っています。